

遠隔医療モデル事業の成果①

団 体	概 要	得られた成果																				
北海道	旭川医科大学が、拠点病院に加えて、地方病院や診療所と遠隔医療（検査画像読影診断、遠隔医療相談）を実施。	<p>道内9医療圏試算</p> <p>□患者の負担軽減効果：約82万円/人、総額12.1億円</p> <p>□患者の在院日数短縮による医療費削減効果：0.27億円/年</p>																				
北海道函館市	札幌医科大学を中心に、遠隔医療ネットワーク「Medlka」（医療機関間におけるデータ共有システム）を活用して、奥尻島など離島への周産期医療支援サービス及び生体データのモニタリングによる在宅医療及び健康管理を実施。	□平均14回の妊婦健診のうち、3回（公費分6回の半分）の遠隔検診実施により、奥尻島の妊婦の検診にかかる通院負担が16万円軽減/人																				
岩手県遠野市	専門医（循環器医師）が、遠隔健康管理（テレビ会議、データ共有）により、地区センター等の高齢者（約300人）に対して、循環器や生活習慣などを中心に健康維持・改善指導などを実施。	<p>□検査項目値によって高血圧症群、糖尿病群、高脂血症群、肝機能異常値症群の4群に分類。いずれかの症群に該当する参加者のうち、1回目測定時と2回目測定時で比較すると改善がみられた。</p> <table border="1" data-bbox="1326 794 2016 979"> <thead> <tr> <th></th> <th>1回目測定時※</th> <th>2回目測定時※</th> <th>改善率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4群重複該当者</td> <td>6人</td> <td>1人</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>3群重複該当者</td> <td>17人</td> <td>6人</td> <td>64.7</td> </tr> <tr> <td>2群重複該当者</td> <td>36人</td> <td>19人</td> <td>47.2</td> </tr> <tr> <td>1群該当者</td> <td>13人</td> <td>9人</td> <td>30.8</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1回目の測定は平成21年2月、2回目の測定は平成21年8月に実施。</p> <p>□最高血圧の有意改善者率62.7%、LDLコレステロールの有意改善者率47.1%</p>		1回目測定時※	2回目測定時※	改善率(%)	4群重複該当者	6人	1人	83.3	3群重複該当者	17人	6人	64.7	2群重複該当者	36人	19人	47.2	1群該当者	13人	9人	30.8
	1回目測定時※	2回目測定時※	改善率(%)																			
4群重複該当者	6人	1人	83.3																			
3群重複該当者	17人	6人	64.7																			
2群重複該当者	36人	19人	47.2																			
1群該当者	13人	9人	30.8																			
富山県南砺市	富山大学や南砺市民病院等が、「南砺市情報ネットワーク」（市内医療機関を結び、診療記録、検査記録、処方記録、画像記録を共有化）を活用して、小児科専門医のいない地域における小児科専門の遠隔コンサルテーションを実施。	<p>□診療所（非小児専門医）の小児受診患者数が前年比200%増加</p> <p>□利賀地区の小児受診者の診療所受診割合が72%→92%増加</p>																				
石川県穴水町	穴水総合病院と金沢医科大学をテレコンサルテーションシステムで結び、脳外科領域の遠隔診断・がん相談及び化学療法支援等を実施。	<p>□患者と家族の通院負担が1ヶ月あたり16時間、約3.3万円の軽減</p> <p>□公立穴水総合病院に1ヶ月あたり77.4万円の増収効果(地域の中核病院の経営維持に貢献)</p>																				

遠隔医療モデル事業の成果②

団 体	概 要	得られた成果
長野県松本市	訪問指導・介護にて測定したバイタル情報をデータベースシステムを介して信州大学医学部や会田病院へ伝送し、患者に対してテレビ電話による遠隔医療相談・遠隔健康指導や、看護師を通じた医療的な処置を実施。	<ul style="list-style-type: none"> □医師が把握可能な情報量が増大し、非通院日の慢性疾患管理が十分に可能 (→きめ細かい在宅ケアが実現し、訪問看護回数の軽減にも効果)
岡山県新見市	携帯型診療支援端末「医心伝信」を活用して、新見市医師会が、遠隔の訪問看護師を介して、市内の病院、診療所、介護施設などの訪問・在宅看護を実施。	<ul style="list-style-type: none"> □外来時間中の遠隔診療が可能になり、2ヶ月で15%（190件程度）の診療所の受入可能外来患者数が増加 (→患者の受診機会の向上) □各病院が入院・手術の可否に関する情報を共有し、診断支援することにより、診断結果の判明時間が1週間程度短縮 (→早期の診断による治療計画の円滑化)
島根県	「医療ネットしまね」（電子カルテ、遠隔画像診断、テレビ会議システム等）を活用して、中核病院の医師から診療所の看護師を通じた遠隔医療（Dt o N/P）、慢性疾患患者の自己管理支援を実施。	<ul style="list-style-type: none"> □患者の通院時間平均約40分節約（1回あたり）、通院費用約6,000円（1回あたり）節約、医師の移動時間約40分削減 (→安心感の向上)
香川県	香川大学および地域診療所が、「かがわ遠隔医療ネットワーク」（電子カルテ、在宅健康管理システム、テレビ会議システム）を活用して、脳卒中、糖尿病など慢性期患者を対象とした遠隔指導・診察を実施。	<ul style="list-style-type: none"> □脳卒中患者の急性期からの転院割合が上昇し40%以上を維持 (→急性期からの患者の円滑な転院に効果) □回復期病院の在宅復帰率が73.9%に上昇、平均待機日数が30%減少 (→円滑な医療連携に効果)
佐賀県	電子カルテシステムを連携させて地域医療機関の情報共有を図り、家庭のテレビを活用した遠隔健康診断・相談とともに、Web会議システムを活用して、中核病院が離島診療所等の医師に対して医療指導等を実施。	<ul style="list-style-type: none"> □医療研修をWeb上で実施することにより、離島医師の移動が省略され、離島における医師不在日数（週1日・8時間/週）が減少 (→約25%の医療機会の向上、医師の安心感の向上、医療の質の向上)